

## 金冠塚古墳(前橋市)

正面が広瀬川東岸古墳群に属する金冠塚古墳/前方後円墳/左手が後円部、右手が前方部/6世紀後半の築造/南西側から見たところ



西側から見たところ/主体部は両袖型の横穴式石室という/標柱と説明板が立っている





上陽村14号墳あるいは山王二子山古墳とも呼ばれるらしい/古代朝鮮半島由来と思われる金銅製の冠が出土した

# 前橋市指定史跡 きん かん づか 金冠塚古墳

指定年月日 昭和61年6月6日

所在地 前橋市山王町一丁目13-3

朝倉町から広瀬町、山王町にかけて、かつては、140基を超える古墳があったといわれています。その中で、昭和10年(1935)に行われた群馬県内の一斉調査では上陽村14号墳として記載されています。

山王二子山古墳とも呼ばれていましたが、金銅製の冠が出土したことにより、名称を金冠塚古墳に統一しました。昭和56年(1981)に発掘調査が行われ、全長52.5m、後円部の直径32.3mで、後円部に榛名山ニツ岳起源の軽石ひかひん せき(角閃石安山岩)を加工して積み上げて造られた推定全長5.2m以上奥壁の幅2.5mの横穴式石室があったことがわかりました。

大正4年(1915)に出土した金銅製冠は、古代朝鮮半島さんごくしだい三国時代の新羅しんらや伽倻かやで作られていた「出の字」型の冠に似ていることから、このころの朝鮮半島の文化の影響が日本にも強く現れていることがわかります。



原品・東京国立博物館蔵



復元された金冠

前橋市教育委員会

北西側から見たところ/正面が後円部で左手奥が前方部



基壇があって、その上に墳丘の高まりがある/正面奥が前方部で右手前が後円部



北側から見た全景/左手が前方部で右手が後円部/墳丘の下部は基壇となっている/残っていた基壇の上に墳丘を復元したとのこと



右手の後円部をアップで見たところ





左手の前方部をアップで見たとこ



これも北側から見た全景/左手が前方部で右手が後円部



北東側から見たところ/左手前が前方部で正面奥が後円部



東側から見たところ/基壇の上に前方部の高まりが見える



南東側から見たところ/正面奥が後円部で右手前が前方部



東端を南側から北方向に見たところ/基壇の上に前方部の高まりがあるのが見てとれる(左手)



その前方部の高まりに目をやったところ



前方部の高まりから東側から西方向に後円部を見たところ





これは真中のくびれ部/南側から北方向に見たところ



これは後円部の高まりで西側から東方向に前方部を見たところ



## 参考ホームページ

[http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/maebasi\\_kinkan/](http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/maebasi_kinkan/)

<http://tigerdream-no.blog.jp/archives/8746125.html>

<http://blog.goo.ne.jp/nekotokenchiku/e/4225425cae0037d0e938821efd9b99d3>

<http://www.gunmaibun.org/osoretainori/kohun/kohun17.html>

<http://mj-ktmr2.digi2.jp/p10gm/tpx14112309hirose.htm>

<http://naka3377.kazelog.jp/eki/2013/11/post-2.html>

<http://kofun.info/kofun/259>

[http://mkawa.at.webry.info/201411/article\\_29.html](http://mkawa.at.webry.info/201411/article_29.html)

<http://yamada.sailog.jp/weblog/2014/10/post-e25d.html>

<http://members3.jcom.home.ne.jp/yoshi-cp/gmasakura.htm>

